

事業所名	ひなどり学園
------	--------

公表日 2026年2月13日

利用児童数

37家庭(38名)

回収数

32家庭

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	31	1			・プールや安全な砂場、十分走りまわれるスペースがあります。		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	31			1	・時には1対1でついでいただいているので安心です。 ・いつも先生がついてくださり安心してきます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29	1		2	・新しい園舎の工夫が楽しみです。 ・気が散りやすいので、少人数保育の時間も保証していただけたとありがたい。	・こどもたちにとって「わかる」環境作りのため構造化に努めるとともに、引き続き、個々の特性や活動内容に適した空間・時間の使い方を工夫する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	31	1			・皆でわいわいと遊ぶスペースと、自分で何かに集中して物事に取り組むスペースもあります。 ・環境、場所、道具、視覚支援をしていたらいいと思うが、見る機会が少ない。		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	31			1	・とてもそう思います。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29			2	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	31			1		・とてもそう思います。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32					・子どもだけでなく、保護者のごとまで親身に支えてくださります。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	29	1		2		・園で生活する様子を見る機会が少なく分からない。 ・とてもそう思います。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	31			1		・朝の集り→外遊び→午後遊びの流れがほとんど変わらないので分からない。 ・園から色々な所へ連れて行ってもらったり、毎日色々な事をしています。	・こども達それぞれが好きなあそびや活動を十分楽しめる時間を保障しながら、今後も、設定保育の中でさまざまな素材や活動を体験する機会を提供する。また、様子や内容をご家族に伝える方法も検討が必要。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	3	10	13		・子どもの負担にならない範囲で大丈夫。 ・他園との交流活動はよく分からない。 ・他センターとの交流行事「幼児のつどい」が中止になり、その後特になかったと思う。 ・他センターとの交流行事「幼児のつどい」がコロナ以降なかったので、結局3年間経験することはありません。	・お子さんや保護者のニーズを丁寧に受け取りながら、交流の在り方や必要性を今後も検討していく。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	32						
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	3	2	3		・進路について卒園児保護者さんとの懇談会を実施している。場所の関係上、今年度の参加は年長児保護者さんに限定したが、参加できない保護者さんにも紙面や職員を通じて情報提供を行った。その他にも、ご家族のご要望に応じて実施できるよう、内容や機会の検討を行う。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	32					・十分にして頂いています。	

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	32					<ul style="list-style-type: none"> ・いつも沢山お話しできて本当に支えてもらっています。 ・いつもどの職員も優しく話を聞いてくださるが、もっと意見や提案を言っていたらとありがたいです。 	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	32					<ul style="list-style-type: none"> ・家族以上に親身になってくださいます。 	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	10	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟が来れない行事が多い(耐震化工事で仕方ないとは思うが)。 ・きょうだいや親の交流イベントがもう少し多いと嬉しい。 ・行事の縮小、人数制限があり、以前ほどきょうだいに関われないが、しょうがないとも思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ懇談会など保護者交流の機会は設けたが、今年度は特に耐震化工事のため場所の制限もあり、保護者の定期的な交流の場やきょうだい児に参加していただける行事の設定は難しかった。今後ともご家族の要望を適切に把握しながら、きょうだい児さんも交流できる機会を検討する。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	30	1		1			
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	32						
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	24	4	2	2			<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の「おたより」やHPなどで情報発信しているが、より充実を図れるよう内容を工夫する。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30	1		1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28		1	3			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29			3			
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30			2			
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	1		1		<ul style="list-style-type: none"> ・少しのケガなどでも必ず連絡いただきます。 	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	32						
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30	2				<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの苦手な活動や気分によっては嫌がる日もあるが、基本的には楽しんでいると思う。 ・毎日とても楽しく通所しています。 ・はなまる◎ 	
	29	事業所の支援に満足していますか。	31			1		<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援・スケジュール・構造化・コミュニケーション支援について、できる範囲で取り入れていただけると、さらに見通しをもって過ごしやすいと思う。 ・ひなどり学園に入園して本当に良かったと思っています。 ・総じて、とても満足しています。 ・皆と一緒に楽しめる事、個別の本人の課題に沿ったSSTも、両方工夫して行ってもらえてありがたいです。 ・ずーっと、通わせてあげたいくらいです。ありがとうございます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に数回、全体での参観や個人懇談の機会を設けており、個別にもご要望に応じて懇談や参観も随時受け付けています。 ・「わからない」状況・環境を減らせるよう参観の機会や方法・お子さんの状況の共有の仕方など職員間で検討し、お子さんにもご家族にも、今後も安心感を持って通所していただけるよう努めていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	ひなどり学園		公表日			2026年2月13日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13	1		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14		・部屋の使い方を明確にしていくことで構造化に努めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14		・こどもが過ごす空間は毎日掃除している。また日常的に掃除できない箇所も、場所や使用頻度に合わせて、隔週や月1回の頻度で掃除するようにしている。	・展開していくあそびに対応できるよう工夫が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14		・その時々のお子さんに対応できるように、個別で過ごせる空間も作っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	6		・話し合える機会が少ない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	4		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	4		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14		・園全体の職員が勤務時間内で受講できる機会をできるかぎり設けている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14		・モニタリング時期に関わらず、定期的に支援内容や実施度を振り返れるよう用紙にしている。	・毎日の支援の中で振り返る時間が必要。 ・担当グループ職員に限らず一定の支援を行えるよう、支援目標・内容を日々確認しやすい工夫が必要。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	2		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12	2	・クラスやグループで話し合う機会を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	13	1		・集団での活動の意義を話し合い、計画に反映させていく必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	3		・連携の方法を事前に話し合っていない。その都度対応していくことは難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	8		・日々の保育で振り返ることが少ないため、時間をとることが必要。 ・勤務時間や時差出勤等で全員で行うことは難しい。共有できるツールを作っていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	1		
	23	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14			・お子さんの状況に合わせて、積極的に連携している。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12	2		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14			・就学前には情報共有する場を設けている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	7			・センターでの通園勉強会や障害児通所支援事業所等の学習交流会に参加している。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8			・保育予定に適した職員体制が整っている場合は、研修内容に応じた職員が、積極的に外部研修にも参加できるようにしている。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7			・京都市障害者自立支援協議会児童専門部会、京都市北部障害者自立支援協議会児童部会、北区子ども発達支援ネットワーク会議等に参画している。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	12		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	1		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	5		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13			・年度初めの保護者懇談会で説明している。また、運営規定は簡易しやすい場所に掲示している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14			・面談で意向をうかがえる場を設けている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	4		・今年度は特に、耐震化工事によってスペースに制限があり、機会の設定が少なくなった。今後はご家族の意向を確認しながら、実施していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13	1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	11		・地域の自治連合会との関りを重視しているが、園行事に地域の方を招待するなどはできていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	5		・各マニュアルを策定しているが、より職員間で共有し、ご家庭へも周知することが課題。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	14			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14		・新年度スタート時には指示書の提出を求め、それに基づき対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	4	・年間の安全計画を作成し、救命講習の受講・外出先の下見や安全面の確認を随時行い共有している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	5	・緊急連絡先の確認を行っている。	・緊急時の連携の取り方について、懇談会などの機会に園の方針を説明し、より周知できるようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14		・ヒヤリハットが発生した際、可能な限り、その日のうちに対策を話し合うようにしている。また、口頭もしくは書面ですべての職員に共有している。	・過去のヒヤリハットも定期的に振り返る機会をつくり、再発防止対策を再確認できるようにする。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	1		・研修の機会を増やし、園としての取り組みや方向性を示していきたい。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	5		・身体拘束を要するお子さんは在籍していないが、今後必要が生じる可能性も考慮し、虐待防止と合わせて職員間で共通理解を図っておく。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひなどり学園		
○保護者評価実施期間	2025年12月22日		～ 2025年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37家庭	(回答者数) 32家庭
○従業者評価実施期間	2025年12月22日		～ 2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さん一人ひとりの選択が尊重され、自分から動けることを目指した環境設定。	どこで何をするのが分かりやすいよう、活動やおそびの内容に合わせて部屋を使い分けており、お子さんの状況に合わせて個別に過ごせる空間も用意している。どのお子さんにも、「〇〇したい」と空間や活動を選択をし、その選択が尊重される経験が重ねられるようにしている。	意思伝達のツールや視覚支援なども行っているが、お子さんの必要に応じてさらに充実させていく。また、まだ「〇〇したい」という思いが明確ではないお子さんへの理解・思いを受け取る側の職員間の意識や共通認識をより高めるため、検討会議や研修実施などに取り組む。
2	本人支援と同様に個別性を重視し、各家庭や保護者に応じた家族支援を行っている。	保護者から相談支援のご希望があれば随時、申し出がなくとも必要性が高いと判断される場合はより積極的に行っている。また、さまざまな家庭事情に対応できるよう、保護者の就労保障やレスパイト等を目的に「延長支援」を日常的に実施している。	きょうだい児の相談なども必要に応じて受けているが、周知が足りていない。引き続き相談支援や保護者同士の交流の機会を保障するとともに、ご家族の要望を確認しながら、きょうだい児の交流の機会なども可能な形を検討していく。
3	職員の勤務時間の範囲で、可能な限り外部研修に参加できる機会をつくっている。	園の体制上、職員がそろって園内研修や会議に参加できる機会は少ないが、その分、個々が経験年数に応じた内容の外部研修に、勤務時間内で参加できるようにしている。研修内容によっては複数人参加するなど、その日の保育内容に支障が出ないよう体制を整えつつ、積極的に知識を得る機会を提供している。	個々の知識や情報を高めるほか、参加した研修内容を共有したり実践したりすることで、職員全体の支援の見直しや質の向上ができるよう、今後も継続的に研修や勉強会などに参加できるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の支援の振り返りを全員で行う機会や職員全体での会議・研修の機会設定が少ない。	延長支援や通園バスの乗務など、職員の勤務や時差出勤をしている体制上、日々の支援の振り返りを全員で行うことが難しい。グループごとの話し合いや打合せは定期的に行い、毎月の職員会議にも極力多くの職員が参加、記録や伝達で情報共有できるようにしているが、職員が揃った状態で会議や研修・お子さんへの支援について話し合う機会が持ちづらい。	日々の振り返りに参加できない職員にも、意見の反映や共有ができるようツールや仕組みを工夫する。共働き家庭も増え、延長支援を含む家族支援はご家族からのニーズの高まりを感じている。ご家族のニーズに応えられるよう延長支援を保障しながらもご協力いただく部分も相談・検討し、職員全体での研修などに充てる時間を増やし、お子さんへのよりよい支援として選せるようにしたい。
2	安全計画など各種マニュアルに関しての保護者への周知。	安全計画や各マニュアルは策定しており、防災に関する訓練等も行っているが、保護者への周知が広がっていない。	緊急時の連携のとり方や各マニュアルについて、保護者懇談会などの機会に改めて周知できるようにする。
3	「児童発達支援センター」としての役割や業務内容に関して、職員全体での共通理解が持ちづらい。	園の保育・支援に関してはどの職員も関心高く参画しているが、「センター」としての役割に関しては職員全体に周知が広がっておらず関心が持ちづらい。	全体の職員会議などで、センターとしての機能や役割のついて改めて確認し合う機会をもつ。